Unified Manager のホスト名を変更しています

Active IQ Unified Manager 9.10

NetApp
October 16, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-910/config/task_generate_an_https_security_certificate_ocf.html on October 16, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Unified Manager のホスト名を変更しています . . . 1
Unified Manager 仮想アプライアンスのホスト名を変更する . . . 1
HTTPS セキュリティ証明書の生成 . . . 2
Unified Manager 仮想マシンを再起動しています . . . 4
Linux システムで Unified Manager ホスト名を変更する . . . 4

Unified Manager のホスト名を変更しています

必要に応じて、 Unified Manager をインストールしたシステムのホスト名をあとから変更することができます。たとえば、タイプ、ワークグループ、監視対象のクラスタグループなどがわかるような名前に変更すると、 Unified Manager サーバを識別しやすくなります。

ホスト名を変更する手順は、 Unified Manager を VMware ESXi サーバ、 Red Hat Linux サーバまたは CentOS Linux サーバ、 Microsoft Windows サーバのいずれで実行しているかによって異なります。

Unified Manager 仮想アプライアンスのホスト名を変更する

ネットワークホストの名前は、 Unified Manager 仮想アプライアンスの導入時に割り当てられます。このホスト名は導入後に変更することができます。ホスト名を変更する場合は、 HTTPS 証明書も再生成する必要があります。

- 必要なもの *

このタスクを実行するには、 Unified Manager にメンテナンスユーザとしてログインするか、アプリケーション管理者ロールが割り当てられている必要があります。

Unified Manager Web UI には、ホスト名（またはホストの IP アドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的 IP アドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワークホストの名前を使用します。DHCP を使用してネットワークを設定した場合は、 DNS からホスト名を取得します。DHCP または DNS が適切に設定されていないと、ホスト名「 Unified Manager 」が自動的に割り当てられ、セキュリティ証明書に関連付けられます。

ホスト名を変更した場合、 Unified Manager Web UI へのアクセスに新しいホスト名を使用するには、ホスト名の元の割り当て方法に関係なく、必ず新しいセキュリティ証明書を生成する必要があります。

ホスト名ではなくサーバの IP アドレスを使用して Web UI にアクセスする場合は、ホスト名を変更したときに新しい証明書を生成する必要はありません。ただし、証明書のホスト名が実際のホスト名と同じになるように証明書を更新することを推奨します。

Unified Manager でホスト名を変更した場合は、 OnCommand Workflow Automation （ WFA ）でホスト名を手動で更新する必要があります。ホスト名は WFA では自動的に更新されません。

新しい証明書は、 Unified Manager 仮想マシンを再起動するまで有効になりません。

手順

1. HTTPS セキュリティ証明書を生成する

   新しいホスト名を使用して Unified Manager Web UI にアクセスする場合は、 HTTPS 証明書を再生成して新しいホスト名に関連付ける必要があります。

2. Unified Manager 仮想マシンを再起動します

   HTTPS 証明書を再生成したら、 Unified Manager 仮想マシンを再起動する必要があります。

HTTPS セキュリティ証明書の生成

Active IQ Unified Manager を初めてインストールするときは、デフォルトの HTTPS 証明書がインストールされます。既存の証明書を置き換える新しい HTTPS セキュリティ証明書を生成することがあります。

- 必要なもの *

アプリケーション管理者のロールが必要です。

証明書を再生成する理由はいくつかあります。たとえば、識別名（ DN ）の値を大きくする場合や、キーのサイズを大きくする場合や、有効期限を延長する場合、現在の証明書の有効期限が切れている場合などです。

Unified Manager Web UI にアクセスできない場合は、メンテナンスコンソールを使用して同じ値で HTTPS 証明書を再生成できます。証明書を再生成する際には、キーのサイズと有効期間を定義できます。メンテナンスコンソールから [サーバ証明書のリセット] オプションを使用すると、 397 日間有効な新しい HTTPS 証明書が作成されます。この証明書には、サイズが 2048 ビットの RSA キーがあります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 * General * > * HTTPS Certificate * をクリックします。
2. [* HTTPS 証明書の再生成 *] をクリックします。

   HTTPS 証明書の再生成ダイアログボックスが表示されます。

3. 証明書を生成する方法に応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

状況	手順
現在の値で証明書を再生成します	[現在の証明書属性を使用して再生成（ Regenerate using current Certificate Attributes ）] オプションをクリックし

状況	手順
別の値を使用して証明書を生成します	[現在の証明書属性を更新する *] オプションをクリックします。 新しい値を入力しない場合は、 [共通名] フィールドと [代替名] フィールドに既存の証明書の値が使用されます。「共通名」は、ホストの FQDN に設定する必要があります。その他のフィールドには値は必要ありませんが、電子メール、会社、部署、証明書に値を入力する場合は、 [市区町村] 、 [都道府県] 、および [国] を選択します。使用可能なキー・サイズ（キー・アルゴリズムは「 RSA 」）と有効期間から選択することもできます。 • キー・サイズに指定できる値は '2048'3072' および 4096 です • 有効期間は、 1 日 ～ 最大 36500 日です。 有効期間は 36500 日ですが、有効期間は 397 日以内または 13 か月以内にすることをお勧めします。397 日以上の有効期間を選択し、この証明書の CSR をエクスポートして既知の CA によって署名された証明書を取得する予定であるため、 CA から返された署名済み証明書の有効性は 397 日に減少します。 • 証明書の代替名フィールドからローカル識別情報を削除する場合は、 ［ローカル識別情報を除外する（ローカルホストなど）］ チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、 [代替名] フィールドに入力したフィールドのみが使用されます。空白のままにすると、結果の証明書に代替名フィールドがまったく表示されなくなります。

4. [はい] をクリックして証明書を再生成します。
5. 新しい証明書を有効にするために Unified Manager サーバを再起動します。

HTTPS 証明書を表示して新しい証明書の情報を確認します。

Unified Manager 仮想マシンを再起動しています

仮想マシンは、 Unified Manager のメンテナンスコンソールから再起動できます。新しいセキュリティ証明書を生成した場合や仮想マシンで問題が発生した場合、仮想マシンの再起動が必要になります。

- 必要なもの *

仮想アプライアンスの電源をオンにします。

メンテナンスコンソールにメンテナンスユーザとしてログインします。

また、「ゲストを再起動」オプションを使用して、 vSphere から仮想マシンを再起動することもできます。詳細については、 VMware のドキュメントを参照してください。

手順

1. メンテナンスコンソールにアクセスします
2. システム構成 > 仮想マシンの再起動 * を選択します。

Linux システムで Unified Manager ホスト名を変更する

必要に応じて、 Unified Manager をインストールした Red Hat Enterprise Linux または CentOS マシンのホスト名をあとから変更することができます。たとえば、タイプ、ワークグループ、監視対象のクラスタグループなどがわかるような名前に変更すると、 Linux マシンのリストで Unified Manager サーバを識別しやすくなります。

- 必要なもの *

Unified Manager がインストールされている Linux システムへの root ユーザアクセスが必要です。

Unified Manager Web UI には、ホスト名（またはホストの IP アドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的 IP アドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワークホストの名前を使用します。DHCP を使用してネットワークを設定した場合は、 DNS サーバからホスト名を取得します。

ホスト名を変更した場合、 Unified Manager Web UI へのアクセスに新しいホスト名を使用するには、ホスト名の元の割り当て方法に関係なく、必ず新しいセキュリティ証明書を生成する必要があります。

ホスト名ではなくサーバの IP アドレスを使用して Web UI にアクセスする場合は、ホスト名を変更したときに新しい証明書を生成する必要はありません。ただし、証明書のホスト名が実際のホスト名と同じになるように証明書を更新することを推奨します。新しい証明書は、 Linux マシンを再起動するまで有効になりません。

Unified Manager でホスト名を変更した場合は、 OnCommand Workflow Automation （ WFA ）でホスト名を手動で更新する必要があります。ホスト名は WFA では自動的に更新されません。

手順

1. 変更する Unified Manager システムに root ユーザとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、 Unified Manager ソフトウェアと関連する MySQL ソフトウェアを停止します。

「 ystemctl stop ocieau ocie mysqld` 」というメッセージが表示されます

3. Linux の hostnameectl コマンドを使用して ' ホスト名を変更します

   hostnameectl set -hostname new_FQDN`

   「 hostnamectl set -hostname nuhost.corp.widget.com 」を参照してください

4. サーバの HTTPS 証明書を再生成します。

   /opt/NetApp/essentials/bin/cert.sh create を使用します

5. ネットワークサービスを再起動します。

   「サービスネットワークの再起動」

6. サービスが再起動したら、新しいホスト名で ping を実行できるかどうかを確認します。

   ping new_hostname

   「 ping nuhost 」

   元のホスト名に対して設定していたものと同じ IP アドレスが返されることを確認します。

7. ホスト名を変更して確認したら、次のコマンドを入力して Unified Manager を再起動します。

   'ystemctl start mysqld ocie au`

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。